

# バプテスマ準備・入会クラス

宗教法人 南本州宣教団

浜 寺 聖 書 教 会

〒592-8345

堺市浜寺昭和町4丁462

0722-62-7287 (TEL)

0722-62-0206 (FAX)

## 目次

救いについて .....	1
「本当の神様とはどのようなお方か」を知る。 .....	1
「神の前に私達はどのようなものか」を知る。 .....	2
「神の恵みによって救われる」ことを知る。 .....	3
バプテスマとは? .....	5
バプテスマの意味 .....	5
バプテスマを受ける備え .....	6
バプテスマを受けてから .....	6
教会とは .....	8
「見えない教会」(共同教会) .....	8
「見える教会(地域教会)」 .....	9
浜寺聖書教会の教会組織 .....	11
長老・監督・牧師 .....	11
執事 .....	12
聖徒 .....	12
会員総会 .....	13
執事会 .....	13
責任役員会 .....	13
浜寺聖書教会の信仰告白 .....	14
聖書 .....	14
神 .....	14
人間 .....	14
イエス・キリスト .....	14
聖霊 .....	15
救い .....	15

教会.....	15
終末.....	16
浜寺聖書教会会員の責任 .....	17
聖餐式.....	17
献金.....	17

## 救いについて

私達は罪を赦され、神との和解を得ることがなければ、決してバプテスマを受けることや教会の一員となることはできません。なぜなら救いを受けることがなければ、私達は神に敵対する存在であるからです。ではどのようにして私達は罪を赦され、神と和解し、救いを得ることができるのでしょうか。

「本当の神とはどのようなお方か」を知る。

神とは創造主である

過去にどれほどの功績があろうと、いかに秀でた偉人であろうと人は死んだからといって神になるということは絶対にありません。また私達の周りに存在する超自然的なあらゆる生き物も、造られたものであって神ではありません。まして人が自分の必要に応じて造り出したものが神であるはずがありません。真の神とは私達人間、自然界、また宇宙の全てのものをお造りになった創造主だけです（創世記 1：1、ヨハネ 1：3、イザヤ 44：9～17、45：18、使徒 17：24、29、ローマ 1：20～23）。

神とは完全に聖い方である

神は私達のように人を欺いたり、偽りを言ったりするようなお方ではありません。罪と全く無縁な神は、そのようなことを行わないだけでなく、心に抱くこともないので。このお方は、罪を犯したことの無い天使達にさえ、恐れられている完全に聖いお方です。このような完全な清さを持つ神は、ご自身の御性質に反するいかなる罪をも裁かずに見過ごすことなど出来ません（レビ 11：

44～45、ヨシュア 24：19、1 サムエル 2：2、6：20、  
1 ペテロ 1：16、出エジプト 20：5)。

「神の前に私達はどのようなものか」を知る。

#### 罪を犯した罪人

私達や万物をお造りになった神は、何の目的でこれらを創造されたのでしょうか。それは、この偉大なる神の栄光、つまりそのすばらしさを明らかにするためです（イザヤ 43：7）。その目的を果たすためには、この神を愛し、その命令の全てに逆らうことなく喜んで服従することが必要なのです。しかし、現実はどうでしょう。この神を信じないだけでなく、このお方が私達に望んでおられる聖い、正しい生き方を無視して、自分勝手に快樂のままに生きることを選択して歩んでいます。この神を信じず、命令に逆らった生き方こそ、神に対する罪なのです（ローマ 1：29～31、3：10～12、23）。

#### 神によって裁かれる運命にある罪人

神に対して罪を犯している人を神は見逃さずに必ず裁かれます。その裁きは公正で、誰一人としてその裁きの前で言い逃れをすることは出来ません。神は私達が実際に行ったことだけでなく、心の中で抱いた不純な思いに至るまで全ての罪を確実に裁かれます。そしてその裁きの結果、その人は地獄ではっきりと意識を持ったまま永遠に苦しみを受け続けるのです（ヘブル 4：13、ルカ 16：19～31、マタイ 25：46、使徒 17：31）。

#### 自分で自分を救えない罪人

人は、いかなる努力や善行をもってしても、神の裁きから逃れることは出来ません。なぜなら、私達が行うど

のような努力も善行も、決して完全な神を満足させることの出来る“完全”なものではないからです。私達は、決して罪を犯さない、完全に聖い者にはどうしても成ることが出来ないのです。どんなに決心しても、その意志を貫くために自らを鍛えても、心の中に潜む罪の力を押さえることは出来ません。この事実は、罪の裁きと、その力から逃れる方法が私達の内にはないことを教えます。救いに関して、私達は希望のない存在なのです（イザヤ 64：6、ローマ 3：20）。

「神の恵みによって救われる」ことを知る。

#### 救い主イエス

人には出来ないことを神はしてくださいました。己を救うことができない私達に対して、神は救い主をこの世に送ってくださったのです。それがイエス・キリストです。本来私達が受けなければならない罪の裁きを十字架で、罪のない神の一人子が代わって受けてくださいました。私達が受けなければならない罪の報酬である死を、罪を持たないがゆえに死ぬ必要のなかった方が、私達に代わって死んでくださったのです。この身代わりの死のゆえに私達の罪は完全に赦されるのです。イエスの十字架での身代わりの死は、私達のどんな罪をも赦すのに余りあるものなのです。

#### 信仰による救い

もしあなたが、自分は神に逆らう罪人であること、永遠の裁きに向かっていること、自分自身を救うことができないこと、あなたの罪が赦されるのは、あなたの身代わりとなり十字架で死に、約束通りに三日目によみがえ

られたイエスキリストによるだけであること、これらのことを心から認め、救われることを心から望むなら、罪を悔い改めて、イエス・キリストをあなたの神、救い主として信じ受け入れることです。これまでの神に逆らう生き方を止め、真の神であり、全ての主であり、唯一の救い主であるイエスをあなたが信じ、このお方に従っていく決心をするなら、その信仰があなたを救います（ヨハネ 3：16、ローマ 10：8～13、1 コリント 15：1～4）。決して、あなたの行う良い行いがあなたを救うのではありません。神に逆らって生きて来た私達罪人が、これまでの生き方をやめて、これからは神に従って生きようと方向を転換するのです。

私達は神が主権者であり、すべてのものを創造した、完全に聖なる方であるということを知りました。このお方は、私達罪人を裁いて当然な方だったのですが、その大いなる愛のゆえに、私達をあわれみ、イエス・キリストにある救いを私達に与えてくださいました。キリストのなした救いの業を私達は受け入れ、イエスを救い主と信じ、生涯をかけてこの主に従順に従っていく決心をしたのです。この救いを受けたからといって、私達が今後罪を全く犯さない完全な者になったというわけではありません。しかし、イエスの身代わりの死ゆえに、それを信じる者の罪は完全に、また永遠に赦されているのです。そして、いつの日か主にお会いし、完全な者へと変えられるそのときまで、私達は自らを清くしようと努力するものとなったのです（1ヨハネ 3：2～3）。

## バプテスマとは？

多くの方が、バプテスマを受けることによって、キリスト教に入信する、またはクリスチャンになると思っていますが、聖書は私達にバプテスマがどのような意味を持っているのかをはっきりと教えています。これからバプテスマを受けようとするみなさんにとって、バプテスマがどのような意味を持っているのか、なぜこのようなことをするのかをしっかりと理解する必要があります。

### バプテスマの意味

新約聖書（特に使徒の働き）を通して私達はバプテスマとは、神がクリスチャンの内になしてくださった恵みの御業を、人々の前で公にする行為であるということを見て取ることができます。すなわち、神によって救われたことを人々の前で証しするのがバプテスマであり、救われるための手段・行為ではありません。「水の中に浸ること」は、神に逆らい罪人であった以前の自分がキリストと共に死んで、葬られたことを、また、「水の中から上げられること」は、その自分がキリストとともに死よりよみがえったことを象徴しています。

またバプテスマは、神に対する従順の証でもあるのです。事実、主ご自身がイエス・キリストを信じ、救われた人々にバプテスマを受けるようにと命じておられます（マタイ 28：19、20）。またバプテスマは初代教会において守り行われていたものなのです（使徒の働き 2：38、41；8：12、13、36、38；9：18；10：47、48；16：15、33；18：

8；19：5)。それゆえに、キリストを主として迎え入れ、従って行くことを決心した私達キリスト者にとってバプテスマとは、受けても受けなくても良いというものではなく、私達の主に対する従順の証なのです。

これによってはっきりと分かることは、バプテスマは、すでに己の罪を認め、救い主であるイエス・キリストを信じたものが、その信仰と従順の証として行うものだということが分かります。バプテスマは、誰でも受けられるものではなく、また救いを得るために、キリスト教に入信するために受けるものでもありません。キリストを自分の主であり、救い主とした者だけが、神から与えられた救いと神への従順の証として受けるものなのです。

#### バプテスマを受ける備え

私達がバプテスマを受ける前にしなければならないことは、バプテスマを受けようとしている一人一人が、確かに救いにあずかる者になったのかを吟味しなければならないということです。なぜなら、上記のように、キリストを信じて救われた者が、その証としてバプテスマを受けるからです。また浜寺聖書教会でバプテスマをお受けになった方は、入会式を経て当教会の教会員となります。それゆえに、自分の母教会となる浜寺聖書教会の教理、また教会観などをこのバプテスマ準備クラスでしっかりと学ぶことが必要です。そして、同意、納得した上でバプテスマを受けましょう。

#### バプテスマを受けてから

バプテスマは、信仰の終着点ではありません。ただの通過点です。私達キリスト者はこの世の歩みを終えて天国へと導かれるまで、主に従順であることが要求されています。バ

プテスマだけでなく、主の忠実な僕として歩み続けましょう。  
また浜寺聖書教会員となった私達は、その責任を自覚し、兄弟姉妹の霊的成長のため、また福音宣教のために自ら率先して励みましょう。

## 教会とは

私達がバプテスマを受けることによって、会員となる教会とはどのようなところなのでしょう。「教会」について考えるには「共同の教会」と、「地域の教会」とをまずはっきりと区別することが大切です。

### 「見えない教会」(共同教会)

#### 「見えない教会」とは

これは、神によって罪から救い出された者たちの集まりを言います。ここには人種や民族の区別、また国境などはありません。ただ聖霊のバプテスマ<sup>1</sup>を受けて、キリストの体に加えられた真のキリスト者だけの集まりです。この見えない共同の教会のことを「キリストの体」(1コリント 12:12~26; エペソ 5:23)、神の人々、聖なる国民、聖徒」(ローマ 8:33; 1コリント 1:2; コロサイ 3:12; 1ペテロ 1:2、2:9~10)、「神、聖霊の宮、神殿、聖なる宮」(1コリント 3:16、17、6:19; 2コリント 6:16; エペソ 2:21)、「聖なる、王である祭司」(1ペテロ 2:5、9)、「花嫁、子羊の」(2コリント 11:2; 黙示 19:7-9) 等と呼んでいます。

#### その責任

「キリストの体」と呼ばれるこの共同の教会の頭はキ

---

<sup>1</sup> 聖霊のバプテスマとは、人が神を信じることによって救われたときただ一度起こるもので、これによって、聖霊がクリスチャンのうちに内住し、キリストの体につながるものとされる。これは聖霊の満たしとは違うものである(参照 1コリント 12:12-13)。

リストであり、すべての信者は例外なくその体の器官です。そのため器官であるすべての信者には①頭なるキリストの命令に服従する責任、②器官としての働きを精一杯するという責任、そして、③お互いの中に一致を保つという責任があります（使徒 12：1；ローマ 12：4-5；1 コリント 10：32、12：12～23、28、15：9；ガラテヤ 1：13；エペソ 1：22～23；4：15-16、25；コロサイ 1：18、2：1～13、16～21、3：4）。

### 「見える教会（地域教会）」

「見える教会」とは

これは、この地球上に存在する、キリストを唯一真の神、救い主として信じていると告白する人々の集まりです。見えない教会には、救われていない人は存在ませんが、見える教会（地上の教会）では、信じていると告白しつつも、実は救われていない人も存在するために、見える教会にいるすべての人が必ずしも真のクリスチャンとは限らないのです。また地域の教会には聖書解釈の違いなどから生まれた多くの教派が存在します。しかし、見えない教会、また見える教会のどちらも、「神の栄光を現す」という共通した目的において一致しています。

### その責任

地域教会には私達の神の偉大さ、そのすばらしさをこの世に知らしめるという大きな責任があります。そのために、私達はこの神を正しく崇め、そのみことばに服従して生きることが不可欠です。また①みことばを学び、そして語ること、②弟子を作ること（伝道し、訓練する）、③神を常に礼拝すること、④祈りを捧げること、⑤助け

いたわり合うこと、⑥神に喜ばれる家庭を築くこと、⑦各自に託されたもの(富など)を神のために用いること、⑧互いの徳を高め合う交わりを持つこと、などが必要です。

浜寺聖書教会も見える教会の一つです。私達は、神のみことばに正しく従っていくことを願い、神を礼拝し、互いの徳を高め、周りの人々にこの神のすばらしさを伝えていくことを切に求めています。これらのことは、日曜日に教会に集まってくる時だけ行われることではなく、毎日の生活の中で行われていくことなのです。すでにキリストの体に加えられているみなさんは、バプテスマ・入会式を通して、地域の教会である浜寺聖書教会につながる者となります。神を拝し従っていく者として、神に喜ばれる生活をするによって、神の栄光を教会の内外であらわしていきましょう。

## 浜寺聖書教会の教会組織

浜寺聖書教会では、聖書に記されている条件に適った「霊的リーダー」を会衆が選び、彼らに教会の運営を委ねています。これがそのリーダーたちです。

### 長老・監督・牧師

聖書には「牧師」、「長老」そして「監督」と呼ばれる教会のリーダー達の事が記されていますが、それらは全く異なった3種類の働き人ではなく、同じ働き人を説明するものです。「長老」とは、「白髪の、年をとった人」という意味です。ちょうど年をとった人、つまり「長老」がその賢明さゆえにこの世の人々から尊敬されるように、教会における霊的リーダー「長老」も、その霊的な知恵において賢明な人であるというところからこの呼び名が使われたのです。また「監督」とは、霊的リーダーが、神から託された群全体を「監督」することが務めである事を教えるために使われました。そして、「牧師」とは、霊的リーダーが託された羊を監督するだけでなく、養い育てて行くのが務めであることを示すために使われたのです。神がご自分の教会を牧させるために召され、教会に遣わされたのが牧師です。牧師は、神が教会のために立てられた者であると聖書は記しています（使徒 20：28；エペソ 4：11～13）。牧師の最も大切な働きは、みことばを教えることです。それは、遣わされた教会の聖徒達の信仰が成長し、それぞれが神の働き人として奉仕の働きを行うようになるためです（エペソ 4：12）。また、他の長老達と共に群れ全体に気を配り、監督することです（1ペテロ 5：2）。

つまり教会は靈的リーダーである長老達によって導かれます。彼らの働きは群を監督することであり、また養い育てることなのです。

### 執事

新約において執事に関する言葉は 3 つあります。それらは、①ディアコノス (diakonos) : 奉仕者、使用人、召使い；②ディアコニア (diakonia) : 奉仕；③ディアコネオ (diakoneô) : 仕える、という意味を持つ 3 つの言葉です。ここからも分かるように、彼らには牧師 (長老、監督) の働きを助けるという責任が与えられています。

### 聖徒

イエス・キリストを救い主と信じている者は全て聖徒であり、神の家族 (見えない教会) に属する兄弟姉妹です。そして、見える教会は、牧師、執事、聖徒が靈的に一致し、愛のうちに建て上げられていくものです。教会の大牧者はイエス・キリストです。その大牧者から遣わされた大切な器が牧師です。牧師がたとえ若くても、尊敬し、大切にし、軽々しく批判しないようにしましょう (1 テモテ 5 : 17)。また、みことばに記されてある靈的資質に適う者として選ばれた執事も同様に尊敬し、そのリーダーシップに従いましょう。聖徒はこのような教会の靈的リーダー達が、常に神のみこころに沿って教会を導いて行くことが出来るように彼らの靈性のために祈り続けることが大切です。

また私達は神が何を求めているのかを吟味しながら生きるために、みことばからの知恵を常に求めることが必要です。自分の判断や世の中の基準によって物事を決めていくのではなく、神のみこころを探りつつ、正しい生涯を全うするた

めに、教会・聖徒らを導くために与えられているリーダーたちの知恵を求めましょう。

#### 会員総会

会員総会は教会の最高議決機関です。定期総会と必要に応じて開催される臨時総会があります。教会の総会は牧師と教会員とによって構成されます。(詳しくは、教会規則を参照のこと)

#### 執事会

選挙規定で選ばれた執事は、みことばにある教会の霊的リーダーに相応しいとして教会員から選ばれたのだという事を各自がしっかりと自覚し、礼拝出席、奉仕、献金など全てのことにおいて聖徒の模範となることを心掛けることが必要です。また、牧師(達)と共に組織する執事会の最大の責任である「みこころに沿って教会を導くこと」を果たすためには、各人が常に「みこころを知るに相応しい人」つまり、神の前に霊的であり続けることが不可欠です。

#### 責任役員会

宗教法人法に定められた教会の役員会で、主任牧師と総会によって選ばれた信徒代表によって構成されています。

これらが浜寺聖書教会を構成する組織形態です。こうした役割を担うすべての者が、神を礼拝し、互いの徳を高め、イエス・キリストの福音を伝えるために、毎日の生活を神の前に従順に生きていく責任が与えられているのです。

## 浜寺聖書教会の信仰告白

### 聖書

私達は、聖書を構成する66の本（旧約39、新約27）はすべて、その原本において、そのすべての部分が平等に（十全靈感）、またそのすべての言葉が靈感を受けた（逐語靈感）誤りの全くない神の言葉であると信じる。また聖書だけが信仰と生活における絶対の規範として神から人に与えられた唯一のメッセージであるため、これをそのとおりに信じ受け入れ、またこれに服従する（すなわち愛し、学び、伝え、実践する）という責任が人にあることを信じる。

### 神

私達は、万物すべてを創造され、それを完全な知恵と力で治めておられる唯一の神を信じる。神は永遠に、父、子、聖霊の三位において存在しておられるが、しかしそれぞれは本質において同一であり、力と栄光を等しくする、すべての被造物により崇拝を受けるに値する唯一のお方であると信じる。

### 人間

私達は、神によって造られた最初の人間アダムが、自らの意志によって神の命令に逆らい、罪を犯し、その結果、霊的にも肉体的にも死ぬ者となったことを信じる。すべての人は、このアダムにあって罪を犯したため、生まれながらに神に逆らう罪人であり、そのため神の裁きが約束されていることを信じる。

### イエス・キリスト

私達は、イエスは真の神であり、真の人であることを信じる。イエスが聖霊により身ごもった処女マリヤから人とし

て生まれられたのは、罪に汚れた人類を救うためであった。そして自ら進んで十字架にかかり、人類が受けるべき罪の裁きを代わって受けてくださった。イエスは、死後三日目に約束通りよみがえり、現在天にあって、私達のためにとりなしをし、将来私達を迎えるために再臨されることを信じる。

### 聖霊

私達は、聖霊が神としてのあらゆる属性を兼ね備えたお方であると信じる。聖霊は、人に罪を示し、認めさせるだけではなく、救いへと導かれる。そして、救われた人のうちに内住し、その人を助け、励まし、教え、導き、そしてキリストに似たものへと造り変えていかれることを信じる。

### 救い

私達は、救いは、救いに関するいかなる希望も、可能性もない私達罪人に対して、神が一方的に備えてくださった神の恵みの賜物であると信じる。神は、霊的に死んでいた私達罪人の救いのために救い主を与えてくださり、その贖いの御業を信じる者を例外なく救ってくださる。しかも、その信じる信仰さえも、神が与えてくださる賜物であると信じる。それゆえ、救いとは神の業であり、賜物なのである。神は人をその罪の裁きから、またその力から救い出してくださるだけでなく、神に喜ばれる新しい歩みへと導かれる。この救いは、永遠に続く、決して失うことのないものであり、人が救われたその瞬間から、その人をキリストに似た者へと変える聖霊の働きが始まると信じる。

### 教会

私達は、教会は神の恵みによりこの世から召し出されたクリスチャンの集まりであると信じる。クリスチャンは、そ

のかしらであるイエス・キリストに服従するという責任を負っている。それは、すなわち聖書のみことばに従うことである。神が教会に与えた使命は、弟子作り、すなわち福音宣教と、信者の教化であると信じる（マタイ 28：19-20）。そのために、教会はみことばを学びその教えに服従し、神を礼拝し、礼典（バプテスマ、聖餐式）を守り、伝道し、教化に励み、それぞれの霊的賜物を用いて互いに仕え励まし合い、そして再臨を待ち望むのである。

#### 終末

私達は、キリストがその花嫁である教会を迎えにこられる日を待ち望んでいる。そのとき、すでに死んでいた信者が栄光の体を持ってよみがえり、次に生き残っている信者が栄光のからだに変えられて空中で主キリストにお会いすると信じる。この空中再臨後7年間の患難時代を経て、イエスは地上に再臨され世を裁かれる。その後、千年王国時代を経て、サタンと悪霊、また神を信じなかった罪人を永遠に裁かれる。彼らには永遠の刑罰が与えられていることを信じる。

## 浜寺聖書教会会員の責任

### 聖餐式

聖餐はキリストの死、すなわちキリストのからだに裂かれ、血が流されたことを象徴的に示しています（1コリ 11：23～32）。主イエス・キリストを救い主と信じ、その信仰を公にし、キリストに服従することをバプテスマを受けることによって表明した人が、これにあずかります。これは、救いにあずかっている者が、キリストの犠牲を通していのちをいただき、罪の赦しに入れられていることを覚え、己の生活を吟味し、神への感謝と献身の思いを新たにするときなのです。主イエス・キリストへの感謝と服従を表わすこのときは、また兄弟がキリストのいのちにあずかって一つであることをも表わします。聖餐式を軽んじる者は、主イエス・キリストとその約束とを軽んじる人です。なぜならば、キリストご自身がこれを覚えて行うように命じているからです。教会で定められた聖餐式には、必ずあずかるようにしましょう。

### 献金

#### 献金の意味

「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された」（ヨハネ 3：16）というみことばの通り、神は私たちすべてに、ご自分の御子を惜しまずに与えてくださいました。私たちは、この神の愛と恵みに対する応答として私たちの全存在と全生活を惜しみなくささげます。献金は、礼拝の行為であり、神の恵みに対する感謝と献身の具体的な表現です。ですから献金は、会費や説教の聴講料やさい銭、お布施とは違います。また、献金はキリストの大宣教命令（マタ 28：19-20、マル 1

615) を遂行するために必要です。私たちは、キリストへの信仰表明として、また大宣教命令に従うために喜んで献金をします。それによって神のみわざに参加させていただくのです。

#### 献金の祝福

献金はクリスチャンの義務や責任としてではなく、神の祝福、神の恵みへの応答としてささげます。聖書は、献金を「聖徒たちをささえる交わりの恵みにあずかる」（Ⅱコリ8：4）ものと教えています。神は惜しみながらもなく、強いられてでもなく喜んでささげる人を祝福してくださいます。

#### 献金の種類

##### 月定献金

教会によっては什一献金とか聖別献金などと言われています。毎月、各自が金額を定めてささげます。これは教会の経常費の主要な財源ですから、毎月確実に、しかも継続的にささげます。旧約時代には収入の十分の一をささげない民に対して、神のものを盗んでいると言っています（マラキ 3：8）。恵みの時代である新約時代に生きている私たちは、旧約の人々以上に、信仰と喜びをもってささげましょう。

##### 集会献金

主日礼拝、その他の集会において、礼拝行為の一部として献金をささげます。

##### 感謝献金

これは、あらゆる機会に、主の祝福とみ守りとを感謝してささげられるものです。バプテスマ、婚約、結

婚、誕生、献児式、入学、卒業、病気、全快、新築、イースター、クリスマス、ボーナス、退職などの時に、感謝と記念の意を込めてささげます。

#### 指定献金

特別伝道集会や会堂建築など、教会の特別な計画や働き、海外宣教などのために、また、教職者の特別な必要のために指定してささげるものです。

#### 特別献金

被災者の救済、金銭的に困っている人々のためにささげる愛の献金などです。

#### 献金の心得

「ひとりひとり、いやいやながらでなく、強いられてでもなく、心で決めたとおりにしなさい。神は喜んで与える人を愛してくださいます」(2 コリント 9 : 7)。

#### 献金の原則

献金は、聖書の原則に従ってささげることが大切です。献金は、決して強いられてするものではなく、各自が自由に自発的に行うものです。この原則は旧約時代も新約時代も同じです(2 コリント 9 : 7、申命 16 : 10, 17)。献金は、各自の収入に応じて、また持っている程度に応じてささげます(1 コリント 16 : 2、2 コリント 8 : 2-12)。集会献金は、あらかじめ心づもりして、準備しておきましょう(1 コリント 16 : 1-2)。

#### 献金の責任

教会の予算が総会で決議されたら、各自は積極的に責任を果たすように努力しましょう。

## 献金の使い方

「管理者には、忠実であることが要求されます」(1コリント 4:2)。献金は、よく管理され、決して無駄な使い方をされてはなりません。そのため、献金を預かる管理者、教会会計係は、忠実で公正であることが大切です。

会計報告は、正確になされるべきです。また、教会そう快で極められた予算に従って運用し、指定献金は、その目的のために用います。教会会計係が勝手に支出したり、個人的に立て替えをしたりすることは慎まなければなりません。献金を支出した場合は、なるべく領収書を受け取り、保管するようにしましょう。